

編 號	Q/02	保 期	3	20	永 水 路 部
係					



軍務局

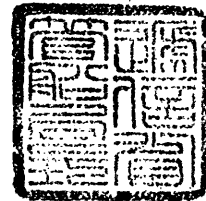
船庶第四七二號

第二課

海軍省 軍務局長 殿

昭和三年九月廿七日

逓信省 管船局長



逓信省

城ヶ島及劍埼燈臺明弧制限ニ關スル件

本件ニ關シ九月二十二日附軍務二第三四〇號ノ二ヲ以テ照會有之候
處右ハ別段差支無之ニ付御申越ノ期間兩燈臺ノ明弧中左記區域ヲ遮
蔽スルコトニ可取計候條了知相成度候

記

- 一 城ヶ島燈臺ハ東方ニ於テ二九七度ヨリ三〇三度マテ六度間及北方
- ニ於テ一四七度ヨリ二五四度マテ一〇七度間
- 一 劍埼燈臺ハ西方ニ於テ六九度ヨリ七五度マテ六度間

軍務第三四〇號ノ二



0435

永	20	3	係
永	()	()	係

水路部

至急

軍務局長

第二課長

局員

昭和三年九月二十二日 軍務局長

遞、管船局長宛

發付済

部員

印

城ヶ島及劍埼燈臺明弧制限ニ關スル件

本年度海軍小演習中三浦半島ノ燈火管制實

施上首題燈臺ノ明弧ヲ左記ノ如ク臨時變更

ノ二トニ御取計ヲ得度

右照會ス

追テ本件ハ横須賀鎮守府ト燈基局トハ下協

議済ニ有之候

記

軍務第三四〇號三

海軍

模造半葉十三行異紙

水路部
3.9.24
受接

一、實施期日

十月八、十一、十二、十三、十四、十五、六日間

二、明弧變更ノ燈臺

燈臺名	臨時變更ノ明弧(眞方位)
城ヶ島	一二三度ヨリ三二七度迄
剣埼	北東ヨリ從來ノ燈トシ南方ハ二四九度迄

終

模造半葉十三行露紙

海軍

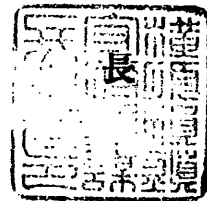
軍務局

横鎮第一五〇一號ノ一三

昭和三年九月二十一日

横須賀鎮守府 参謀

海軍省 軍務局長 殿



第二課

城ヶ島及劍埼燈臺明弧制限ニ關スル件

本年度小演習中三浦半島全部ノ燈火管制實施ニ際シ首題燈臺ヲシテ陸正面ヲ照明セシメサル爲其ノ明弧ニ左ノ通制限ヲ加ヘ度候ニ就テハ遞信省ニ對スル交渉竝一般告示方ニ就テ然ルヘク御配慮ヲ得度右照會ス

記

一期 日

0437

軍務第三四〇號



十月八、十一、十三、十四、十五ノ六日間

明弧ノ範圍

燈臺名	明弧ノ範圍(眞方位)
城ヶ島	一二三度ヨリ三二七度迄
劍埼	北東方ハ從來ノ儘トシ 南西方ハ二四九度迄

追テ本件ニ關シテハ遞信省燈臺局トハ内協議済ニ有之候

(終)

防空

三浦半島對空警戒並防空實施要領

第一 警戒法

- 一、警戒ハ各方面毎ニ之ヲ實施スルモノトス但シ横須賀市及田浦町等ノ軍港地域内ニ於テハ海兵團長及防備隊司令ノ指示ニ從フヲ要ス
- 二、憲兵警察在郷軍人青年團等ハ概ネ左記ニ依リ方面ノ警戒ニ任ズルモノトス
 - 憲兵隊 軍機保護治安維持等ヲ主トシ併テ燈火管制ノ指導ニ任ズ
 - 警察隊 平時業務ニ準シ特ニ燈火管制ノ指導及治安維持ニ任ズ
 - 在郷軍人 青年團員 海洋少年團
- 各分擔區域内ニ於テ警備ニ任ジ特ニ燈火管制ノ勵行死傷者(假想)救助並之ニ伴フ交通事故防止ニ努ム
- 各消防區毎ニ防火防毒(假想)ノ任務ニ服ス

第二 燈火管制

- 三、燈火トハ電燈瓦斯燈其ノ他一切ノ燈火ヲ云フ
- 四、燈火管制ハ各市町村毎ニ之ヲ實施ス
- 五、燈火管制實施地域ヲ左ノ通定ム
 - 横須賀市 一 田
 - 田浦町 一 田
 - 逗子町中 小坪、新宿、逗子、田越
 - 葉山町中 笠摺、堀内、真名瀬、打網、下山口
 - 長井町中 長井、漆山
 - 三崎町中 三崎
 - 浦賀町中 久比里、浦賀、三軒谷、走水、伊勢町、馬堀、大津
 - 久里濱村中 内川新田、八幡久里濱
- 六、燈火管制ハ左記區分ニ依ル
 - (一) 警戒管制
 - 夜間航空機來襲ノ虞アル場合ニ行フ

(二) 非常管制

七、燈火管制ノ爲メ各部ニ於テハ演習實施迄ニ豫メ左記準備ヲ完成シ置クモノトス
 夜間航空機來襲セル場合ニ行ヒ警戒管制ヨリ移ルヲ例トス

燈種	管制標準	備標準
(一) 廣告燈、裝飾燈	警戒管制ニ於テ消燈シ得ル如クス	
(二) 屋外燈	下方ノミヲ照シ他ニ漏光セザル様電燈傘ノ下面ハ深キ布片ヲ以テ被包スルカ又ハ赤色ヲ以テ電球ヲ塗粧シ光力ヲ減シ得ル如クス	
(三) 屋内燈	適宜電燈覆ヲ施シ室内ノミヲ照シ尙光線ノ屋外ニ洩レザル如ク窓入口等ニ遮蔽ヲ行ヒ得ル如クス	
(四) 諸車覆	上半面ヲ赤色布片ニテ被包スル等光力ヲ減シ概ネ地上ノミヲ照シ其ノ反射光線ヲ微弱ナラシメ得ル如クス	
(五) 船舶	舷燈橋燈及碇泊燈ハ點燈ノ儘トスルモ上方ニ對シ遮蔽ス(危險ナラザル場合ハ消燈スルモノトス)其ノ他ノ燈火ハ一般陸上ニ於ケルト同様ニ管制シ得ル如クス	
(六) 燈臺	消燈セズ但シ上方ニ對シ遮蔽シ尙ホ必要ニ應ジ陸正面ヲ照射セザル如クス	

八、燈火管制ハ別紙三浦半島燈火管制實施要領ニヨリ實施ス

第三 警報

九、燈火管制ノ實施ハ別紙電話ヲ介シ鎮守府ヨリ之ヲ指示ス

一〇、各方面ニ於ケル警報傳達ハ電話、電燈、サイレン、警鐘、傳令員等ニヨリ概ネ別紙三浦半島燈火管制實施要領ニ準シ之ヲ實施ス

一一、燈火管制警報規約

横須賀市及田浦町方面ノ信號法ヲ左ノ通定ム其ノ他ノ方面ニ於テモ之ニ準據シ實施スルモノトス
 (一) 警戒管制

警報	實施法	意味
約二秒間隔ニテ短符約一〇回	供給電燈ニ依リ點滅ス	
汽笛長一聲(一聲約三十秒間隔十秒)	工廠、下士官兵集會所ニテ吹鳴ス	警戒管制ヲナセ

(二) 非常管制

警報	報	實	施	法	意	味
約十秒消燈シタル後約二秒間隔ニテ短符四五回更ニ長符(約十秒)一回		供給電燈ニ依リ點滅ス				
汽笛短三聲 (一聲約十秒間隔五秒)		工廠、下士官兵集會所ニテ吹鳴ス				
					非常管制ヲナセ	

一、警報ハ左記場所ニ於テ之ヲ行フ
電燈警報

方	面	管	制	場	所
横須賀市方面(逸見ヲ除ク)		東京電燈株式會社若松町變電所			
同 逸 見		同 右		横須賀變電所	
田 浦 町 方 面		同 右		船越變電所	
逗 子 町 方 面		日本電力株式會社横濱營業所逗子出張所			
葉 山 町 方 面		東京電燈株式會社横須賀變電所			
長 井、三 崎 町 方 面		東京電燈株式會社三浦變電所			
浦 賀 町、久 里 濱 村 方 面		同 右		浦賀變電所	

(一) 汽笛其ノ他ニヨル警報

各方面ノ定ムル所ニヨル

一、燈火管制ノ解除ヲ爲ス場合左ノ信號ヲナス

(一) 非常管制ヨリ警戒管制ニ復スル場合

一一項(一)警戒管制ノ時ニ同ジ

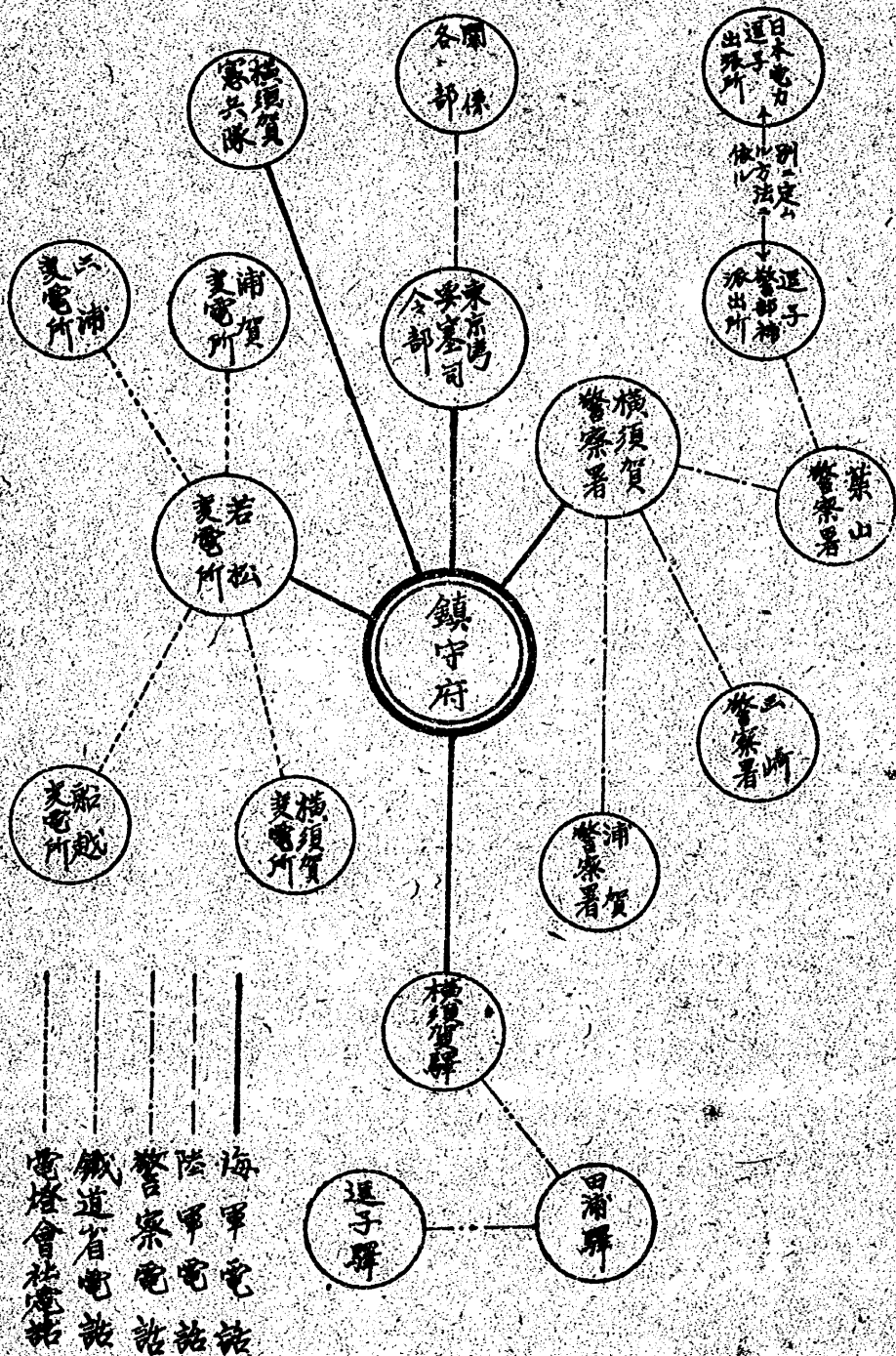
(二) 燈火管制ヲ止ムル場合

電話及傳令員等ヲ以テ之ヲ通達ス

(別紙三浦半島燈火管制實施要領添フ)

(終)

電話系統表



海軍小演習三浦半島燈火管制實施要領

種	類	信	號	燈	火	ノ	處	置	記	事
警	敵飛行機襲來ノ虞アレ	一、電燈ヲ約十回點滅ス	一、廣告燈、裝飾燈ハ全部消ス	一、施行期日						
戒	飛來機	二、「サイレン」ヲ長ク一回	二、屋外燈 下方ノミヲ照ス様傘ヲカケ電球ヲ赤、紫等ニ塗り又ハ赤、紫黒等ノ布ヲ被包シテ光力ヲ減スル様ニス	第二回						
管	飛來機	三、「サイレン」ヲ長ク一回	三、屋内燈 業務ニ差支ナキ程度ニ點燈シ黒布ノ電燈覆ヲ施シ室内ノミヲ照ス様ニシ尙窓入口等カラ屋外ニ漏レナイ様ニスル	十月八日 (午後八時頃カ) ラ約二時間						
非	敵飛行機襲來ノ虞	一、電燈ヲ長ク一回消シタ後點滅數回更ニ長ク一回消ス	四、諸車燈 光力ヲ減ジ出來ルダケ地面ダケヲ照ス様ニスル	第一回						
常	敵飛行機襲來ノ虞	二、「サイレン」ヲ長ク一回	一、絕對ニ必要以外ノ燈火ヲ消ス	自十月十一日 至十月十四日						
管	敵飛行機襲來ノ虞	三、在郷軍人「飛行機」ガ來タカラ燈火ヲ消シテ下サイ	二、警戒管制ヨリ一層嚴重ニ燈火ガ外ニ漏レナイ様ニスル	隨時(敵軍飛行機ニ對スル) 警戒ヲ要スルトキ)						
制	敵飛行機襲來ノ虞	四、水兵ガ喇叭ヲ吹イテ巡ハル	警戒管制ノ場合ニ同ジ	第二回						
非常管制ヨリ警		一、電燈ヲ約十回點滅ス								
警戒ニ變更		二、「サイレン」ヲ長ク一回								
燈火管制止		一、「サイレン」ヲ短長數回	平常ノ通點燈ス							
備考		二、在郷軍人「燈火管制」ヲ止メマス								
		「サイレン」ノ無い場所デハ警鐘等ヲ以テ知ラシメテ下サイ								

標語

一、喇叭ガ鳴ツタラ燈火消セ

二、ブーブーブー
ダ敵ガ來タ

昭和三年十月

横須賀鎮守府

0442

防空ノ話

○恐シイ世ノ中トナツタ

科學ノ進歩ニ伴ヒ戰鬪ノ方法ガ變ツテ行クノハ當然デアアル。

平面的ノ戰鬪ガ何時トナク立体的戰鬪トナツタ、空ニハ航空機、水中ニハ潜水艦ト云フ様ナ恐シイ怪物ガ出現スル時代トナツテオ互日本國民モ考ヘネバナライコトニナツタ。今日海國日本ノ國防ニハ制海ト共ニ制空ガ絶對ニ必要ニナツタ。敵ノ特種大型爆撃機ハ露傾カラモ支那沿岸カラモ容易ニ帝國ノ上空ニ出現スルコトガ出來又太平洋方面カラモ優勢ナル敵海軍ノ活動ニヨリ航空機ガ飛來シテ我國土全部ガ危險ニ暴露スルコトトナル。飛行機百臺ヲ以テスレハ東京全市ヲ燒キ盡スニ一晝夜ヲ要シナイデアロウトハ某外國專門家ノ推定シタ數字デアアル、更ニ毒瓦斯ヲ撒布サレタ場合ハ一層悲惨ナル事ガ想像セラレ、今ヤ地震以上ノ脅威ガ大空カラ吾人ニ迫ツテキルノデアアル。

○併シ恐レテハナラヌ

新ラシイ攻撃方法ガ出現スレバ又之ニ對シテ新ラシイ防禦方法ガ案出サレルノハ當然デアアル。航空機ノ襲撃ニ對シテハ確ニ防空ノ手段ガアル、怖レテハナラヌ、要ハ理解ト用意ト意志ニアアル、文明國民一生存競争場裡ニアアル吾人ハ科學ヲ理解シ周到ナル用意ノ下ニ強キ意志ガナケレバナラヌ一愈々國民國防一國家總動員ノ時代トナツタ。

○三浦半島ノ防空

半島ノ防空ハ積極的ニハ敵艦隊ヲ掃蕩シ特ニ敵航空母艦ノ擊滅ニ在レドモ直接防空トシテノ要領ハ

- (一) 敵機ノ襲來ヲ逸早く知ル爲メ空中聽音機ヲ有スル監視員ヲ多數、半島外周遠距離ニ置クコト
- (二) 半島外周數線ニ設ケタル高角砲ニ依リ擊攘スルコト
- (三) 内外數ヶ所各所ニ設ケラレタル飛行場ヨリ優勢ナル飛行機ヲ飛バシ擊攘スルコト
- (四) 夜間ハ探照燈ヲ用ヒテ高角砲ノ射撃ヲ補助スルコト

五) 半島民ノ周到ナル計畫ノ下ニ半島全部ノ燈火管制ヲ行ヒ上空ヨリノ發見ヲ困難ナラシム

ルコト

○燈火管制

防空設備が完備スレバスル程晝間爆撃が困難トナツテ夜間爆撃が行ハレル様ニナル。

歐州大戦デモ中期以後ハ主トシテ夜間爆撃が行ハレタ。而シテ損害が段々ト減少シタノハ全ク防空設備が完全シタ結果デア
ル。中ニモ燈火管制ノ訓練が行キ届イタ爲メ目標ノ發見困難随ツテ闇夜ノ鐵砲同様デアツタコトハ英、佛、獨飛行家ノ何レモ
体験シタ事實デアアル。

扱テお互ガ要求スル理想的ノ燈火管制トハドンナモノデアアルカ、ソレハ燈火ヲ一齊ニ消スコトガ上手ニナツタト云フノミデ
ハナク次ノ様ニ行ハレナケレバナラス。

(一) 信號合圖ニ依ツテ不必要ナ燈火ハ全部一齊迅速ニ消スコト

(二) 必要已ムヲ得ザル燈火ハ點燈ノ儘上空(斜方ヨリモ)ヨリハ少シモ見ヘナイ様ニ完全ニ覆

ヲナスコト

(三) 燈火管制中デモ交通整理が良ク出來ルコト

(四) 必要ナル工場、官衙、會社商店等デハ仕事を續行スルコト

斯様ニ美事ニ行ハレルニハ官民一致ノ力ニ俟ツヨリ外ニナイ。

半島民全体ガ國防ノ責任ヲ分擔シ協力一致進デ工夫研究シナケレバナラス、横須賀鎮守府デモ前數回横須賀市民及田浦町民
諸君ノ異常ナル協力ニ依リ防空演習ヲ實施シ防空計畫上多大ノ資料ヲ得タルハ深ク感謝スル次第デアアル。

今年度行ハルベキ小演習ニ於テハ航空機ノ活動ガ如何ニ進展スルヤ豫測ヲ許サザルモ別紙燈火管制實施要領ニ依リ本半島ノ
完全ナル防空ヲ計リ併テ帝國ノ中樞タル東京灣防衛ノ完璧ヲ期シタイノデアアルカラ、諸君ニ於テモ一層ノ理解ト旺盛ナル意
氣組ヲ以テ協力セラレントヲ希望スル。

昭和三年十月

横須賀鎮守府